

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| 受理番号          | 学校            | 教科       | 種 目 | 学年 |
|---------------|---------------|----------|-----|----|
| 30-117        | 小学校           | 理科       | 理科  | 6年 |
| 発行者の<br>番号・略称 | 教科書の<br>記号・番号 | 教 科 書 名  |     |    |
| 26 信教         | 理科 605        | 楽しい理科 6年 |     |    |

## 1. 編修の基本方針

『身近な自然とかかわり、見通しをもって観察、実験などを行い、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力と自然を愛する心情を育てる教科書』

この教科書は、学習指導要領に示された「目標及び内容」に基づき、新しい理科教育の動向を踏まえ、多数の学校現場の実践から示唆されたことを重視し、学習すべき内容を厳選・集約して構成した。

教科書を活用しながら、身近な自然に親しみ、自ら問題を見だし、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の資質・能力と自然を愛する心情を育て、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ることを目標に教科書の編修にあたった。

なお、教育基本法を踏まえて編修上特に意を配した点は、以下の通りである。

- (1) 教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」を受けて、身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。
- (2) 教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」を受けて、単元によっては「学習の計画」、「実験の計画」など児童の実態や問題意識に応じて個に応じた学習が展開できるように配慮した。また、「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるように配慮した。
- (3) 教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」を受けて、学習の場において対話的な学びによる児童相互の高め合いや男女の協力による、より良い人間関係と社会の形成に意を向けるよう配慮した。
- (4) 教育基本法第2条第4号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」を受けて、教科書編修に際して「生命」、「自然」、「環境」に特に留意した。
  - ① 「生命」について
 

飼育・栽培活動を多く取り入れるように配慮した。愛着をもって植物を育て観察する活動や、世話をしながらチョウやメダカを育てたりする活動などの直接体験を通して生命に畏敬の念をもち、生命を尊ぶ心情と態度を養うことができるように編修した。
  - ② 「自然」について
 

児童にとって身近な自然の事物・現象から素材を選んで教材化することにより、自然への親しみを高め、さらに自分自身と自然とのかかわりを深め、自然の持続可能性を守るために、将来にわたって自然を大切にしていこうとする心情と態度を育てることができるように編修した。

## ③「環境」について

学年の発達段階に応じて、動物・植物を扱う学習においては必要以上の植物を採取しないことや観察し終わった動物は元の場所に返すことなどの配慮を示唆した。6年生ではこれまでの理科学習の内容を総合的に関連づけながら地球規模の環境保全について考え合い、自らができる具体的な行動や配慮点に気づくことができるように編修した。持続可能な社会の構築のための環境教育の重要性に配慮した。

- (5) 教育基本法第2条第5号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」を受けて、児童自らが育てられた地域と、身近な自然を通してかかわることにより、郷土さらには我が国を愛する心情や態度をはぐくめるよう配慮した。

## 2. 対照表

| 図書の構成・内容        | 特に意を用いた点や特色   | 該当箇所   |
|-----------------|---|--|
| 1 「ものの燃え方と空気」   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。<br/>(第1号)</li> <li>・学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。<br/>(第2号)</li> <li>・対話的な学習の場を設定し、児童相互に協力し合い、より良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。<br/>(第3号)</li> <li>・「身近な環境」として燃焼前と燃焼後の空気の組成を扱うことで、「地球規模の環境」の保全を考える素地を養えるよう配慮した。<br/>(第4号)</li> </ul>          | (P6～P7)<br>(P9～P10)など<br><br>(P8, P10, P14, P16)<br><br>(P9, P11, P18)<br><br>(P11, P17～P19) |
| 2 「人や他の動物の体」    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。<br/>(第1号)</li> <li>・学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。<br/>(第2号)</li> <li>・対話的な学習の場を設定し、児童相互に協力し合い、より良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。<br/>(第3号)</li> <li>・人や他の動物の体のつくりや働きについて、その巧みさを感じ取り、畏敬の念をもち、生命あるものに感動しながら関わる学習の場の設定に配慮した。<br/>(第4号)</li> </ul> | (P22～P23)<br>(P24, P25)など<br><br>(P24, P27, P30, P36)<br><br>(P23)<br><br>(P24～P27)など        |
| 3 「植物のからだとはたらき」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。<br/>(第1号)</li> <li>・学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。<br/>(第2号)</li> <li>・対話的な学習の場を設定し、児童相互に協力し合い、より良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。<br/>(第3号)</li> </ul>  | (P40～P41)<br>(P43～P44)など<br><br>(P44, P46, P50, P51, P54)<br><br>(P42, P44, P48)             |

|               |   |  |
|---------------|---|--|
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の児童が、身近な植物の体の仕組みや働きに畏敬の念をもち、生命あるものに感動しながら関われる学習の場の設定に配慮した。(第4号)</li> </ul>   | (P43～P44) など   |
| 4 「生き物と自然」    | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。(第1号)</li> <li>学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。(第2号)</li> <li>対話的な学習の場を設定し、児童相互に協力し合い、より良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。(第3号)</li> <li>「身近な環境」とともに「地球規模の環境」へも関心をもち、環境保全の考えや行動ができるようにする構成に配慮した。(第4号)</li> <li>児童自らが生活する地域と身近な自然に関わりながら学習する場を通し、郷土さらには我が国を愛する心情や態度を育めるよう配慮した。(第5号)</li> </ul> | (P62～P63)<br>(P64～P67) など<br><br>(P66, P69, P70, P73)<br><br>(P63, P70)<br><br>(P67～P69, P70～P71, P72～P73)<br>(P65～P66, P74～P75) |
| 5 「月と太陽」      | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。(第1号)</li> <li>学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。(第2号)</li> <li>対話的な学習の場を設定し、児童相互に協力し合い、より良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。(第3号)</li> <li>自分を取り巻く宇宙の姿に畏敬の念をもち、感動しながら関われる学習の場の設定に配慮した。(第4号)</li> </ul>  | (P76～P77)<br>(P78～P79) など<br><br>(P79, P81, P84)<br><br>(P82)<br><br>(P79, P80, P87)   |
| 6 「大地のつくりと変化」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。(第1号)</li> <li>学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。(第2号)</li> <li>対話的な学習の場を設定し、児童相互の協力によるより良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。(第3号)</li> <li>土地のつくりや変化の様子を「地球規模の環境」ととらえ、環境保全の考えや行動ができるようにする構成に配慮した。(第4号)</li> <li>児童自らが生活する地域と身近な自然に関わりながら学習する場を通し、郷土さらには我が国を愛する心情や態度を育めるよう配慮した。(第5号)</li> </ul>   | (P88～P89)<br>(P92～P95) など<br><br>(P94, P97, P100, P103) など<br>(P91) など<br><br>(P91～P95, P107～P110) など<br><br>(P88～P90) など        |
| 7 「てこのはたらき」   | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。(第1号)</li> </ul>   | (P116)<br>(P117～P119) など   |

|             |  |   |
|-------------|--|---|
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。(第2号)</li> <li>・対話的な学習の場を設定し、児童相互の協力によるより良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。(第3号)</li> </ul>   | (P118, P119, P121, P123, P124, P126)<br>(P117, P125)  |
| 8 「水よう液の性質」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。(第1号)</li> <li>・学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。(第2号)</li> <li>・対話的な学習の場を設定し、児童相互の協力によるより良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。(第3号)</li> <li>・「身近な環境」とともに「地球規模の環境」へも関心を持ち、環境保全の考えや行動ができるようにする構成に配慮した。(第4号)</li> </ul>  | (P136～P137)<br>(P138) など<br><br>(P138, P143, P145, P147)<br>(P137, P140, P146)<br><br>(P144)              |
| 9 「電気の利用」   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。(第1号)</li> <li>・学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。(第2号)</li> <li>・対話的な学習の場を設定し、児童相互の協力によるより良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。(第3号)</li> <li>・電気をつくる、ためる、有効利用するという観点に立ち、一人一人の児童が、持続可能な社会の構築のための行動や配慮点に気づけるよう配慮した。(第4号)</li> </ul>  | (P150)<br>(P152～P153) など<br><br>(P152, P153, P154, P155, P156) など<br>(P151, P160, P165, P166)<br><br>単元全体 |
| 10 「人と環境」   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材を教材化し、児童が見いだした問題に自ら立ち向かい、科学的な問題解決の一連の過程を歩む中で、確かな知識と真理を求める態度を培える構成を工夫した。(第1号)</li> <li>・学習の歩みが見える「学習カード」を随所に取り入れ、個人追究の参考になるよう配慮した。(第2号)</li> <li>・対話的な学習の場を設定し、児童相互の協力によるより良い人間関係と学習集団の形成に意を向けるよう配慮した。(第3号)</li> <li>・これまでの理科学習の内容を総合的に関連づけながら、地球規模の環境保全について考え合い、自らができる具体的な行動や配慮点に気づくことができるようにし、持続可能な社会の構築のための環境教育の重要性に配慮した。(第4号)</li> <li>・児童自らが生活する地域と身近な自然に関わりながら学習する場を通し、郷土さらには我が国を愛する心情や態度を育めるよう配慮した。(第5号)</li> </ul> | (P172～P173)<br>(P174～P175) など<br><br>(P175, P176, P177, P179)<br>(P173)<br><br>単元全体<br><br>単元全体           |

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 児童が、自ら学ぶことの楽しさを味わいながら、五感を通して見て、感じて、調べることからスタートし、児童相互に情報交換しながら考え合い、納得して、実感を伴った理解にいたるという探究の道筋を歩む経験を大切にしました。それは、単に知識を得るということではなく、自然とのかかわり方や自然を学ぶ方法を身につけ、生きる力を育むことにも通じていくと考え、単元構成や展開に配慮しました。
- 言語活動の充実をはかるために、予想や仮説、観察、実験の方法について考えたり説明したりする場面、結果を整理し考察する場面、単元で学習したことをまとめて学習を振り返る場面などを設定し、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動を重視しました。
- 理科学習の中でのものづくりの意義を大事に考え、積極的に取り入れた。ものづくりの過程で生じてくる困難点や課題を、学んだことを生かしながら自ら工夫して解決し、その喜びを体得できるように構成しました。また、児童相互の情報の交換や教え合いの場であり、互いに個のもつ力を尊重し合うことができる場であるととらえ、ものづくりを充実させた。
- 学校内外での自然体験活動を重視し、地域の自然観察をはじめ、地域の博物館や科学館の利用などの具体例を掲載した。(学校教育法 21 条 2 号)
- 生活に必要な数量的な関係を正しく理解し、処理する基礎的な能力を養うために、他教科、特に算数科との関連をはかり、長さ、重さ、温度などの単位の意味や表記の仕方や、平均の求め方、実験結果をグラフや表にまとめるなどの活動を取り入れた。(学校教育法第 21 条 6 号)
- 自然災害への対応として、天気、川、土地の学習において、自然事象の働きや規則性などの理解の上に立ち、その働きがキャパシティを超えたり、規則性からはずれたりしたときに自然災害につながるという見方・考え方でとらえさせ、防災・減災を考えられるように配慮しました。
- 人権教育への配慮として、身体障害者や様々な人種の子どもの挿絵やキャラクターを登場させた。また、ユニバーサルデザインへの対応として、色覚に関する個人差に考慮したデザインを用いた。
- ICT 機器が有効に活用できる場面を設定した。また、学習上特に必要かつ有効と思われるインターネットによる情報を提供するために、自社ウェブページ URL および二次元コードを明記し、参照しやすくなるよう配慮した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

| 受理番号          | 学校            | 教科       | 種 目 | 学年 |
|---------------|---------------|----------|-----|----|
| 30-117        | 小学校           | 理科       | 理科  | 6年 |
| 発行者の<br>番号・略称 | 教科書の<br>記号・番号 | 教 科 書 名  |     |    |
| 26 信教         | 理科 605        | 楽しい理科 6年 |     |    |

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- 身近な地域の自然に親しみをもち、自らの諸感覚をはたらかせたり、これまでの体験を生かしたりしながら自然の事物・現象とかかわる中で、自然に対する関心・意欲を高め、主体的に問題を見いだすことができるように単元の構成を図った。
- 見通しをもって観察、実験などを行い、理科の見方・考え方をはたらかせながら問題を解決していく学習過程を取り入れ、自然の事物現象に対する「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力が身につく学習場面の構成を図った。
- 観察・実験などの結果を整理し、考察、表現する活動を大切にし、学習事項を生活とのかかわりの中で見直し、自然の事物・現象についての実感を伴った理解が図れ、理科の有用感が認識できるように単元の展開を工夫した。

### (1) 自然とかかわりながら問題を見だし、主体的・対話的に追究する単元構成の工夫

#### ① 単元のはじめ

- 自然の事物・現象に興味・関心や感動をもち、学習することへ意欲や期待感を高め、学習活動の見通しがもてるように見開き写真やイラストなどの提示を工夫した。
- 問題意識を呼び起こし、事象提示から単元全体の問題把握ができるように焦点的なリード文や既習学習や生活経験の想起の場を設定した。

#### ② 単元展開

単元のはじめに見いだした問題を継続的、主体的に追究できる展開の工夫をした。下記の場面を児童が理解できるように、学習カードの記述やキャラクターの吹き出しの言葉に具体性をもたせるなどの工夫をした。

- 身近な事物・現象から問題を見だし、話し合うことを通して、学習する問題を集約する場面
- 予想に基づいて問題解決の見通しをもって進める観察・実験の場面
- 観察・実験をまとめ、考察し合う場面

#### ③ 扱い時間

学習活動の精選と効率化を図り、児童が発想した問題解決の方法を生かしつつ、時間に余裕をもって主体的に追究ができるように配慮した。

#### ④ 親しみのもてる人物・教師（キャラクター）の掲載

疑問や気づき、関心の高まり、観察・実験の視点、次の課題への連続的なつながりなどをキャラクターの吹き出しで語らせ、児童の追究意欲を高めたり、理解の定着を図ったりできるようにした。

### (2) 安全かつねらいが達成できる観察・実験の工夫

児童の実態を予想しながら予備実験を重ね、安全かつ確なデータが得られる観察・実験の方法を取り入れた。

- 安全上の注意喚起のため赤色の「注意」マークと具体的な注意文を記載し、危険防止を図るようにした。
- プラスチック段ボールやペットボトルなど、身近なもので実験材料を用意でき、できるだけ多く個人実験が可能になるような方法を工夫した。
- 写真や絵図などを使い、またレイアウトを工夫するなどして、観察・実験の手順と方法が十分に理解できるように配慮した。

- ④ 手元写真や拡大写真などを使い、正確な観察・実験ができ、確実なデータ収集ができるよう工夫を図った。

### (3) 生きてはたらく「知識・技能」の習得を図る工夫

- ① 観察・実験の結果の考察などに役立つ「学習カード」  
観察・実験の結果の考察等を言語化して表現することを大事にし、かつ学習したことの整理や理解の確認ができるように「学習カード」の記述内容に配慮した。  
また、観察・実験などを通してわかったことや気づき、新たな疑問などを記録することにより、自分の考えを表現する力を高めることができるように下記の点に配慮した。
- ・次の追究につながるようにするため、学習カードの配置を工夫する。
  - ・観察・実験から得られた気づきや発見を大事に記録する。
  - ・データの処理は、学年発達段階に応じて、図や絵、グラフなどを用いて表現する。
  - ・科学的な見方・考え方の深まりや次の追究に生きる内容を記述する。
- ② 単元の学びを振り返る「まとめよう」のページの設定  
問題の見だしから問題解決までの一連の過程を振り返り、科学的なものの見方・考え方を高め、基礎的・基本的な内容の確かな理解と定着ができるように、各単元にこのページを設けた。
- ・児童の言葉(科学的用語を駆使して)を使い、図、グラフ、表などを用いて表現することを通して、学習内容の確かな定着を図ると同時に、自分の考えをわかりやすく伝えるための表現力を養うことができるように配慮した。
  - ・学んだことを生活とのかかわりの中で見直し、身の回りの日常的な事物・現象に当てはめて考察できる力を養うことができるように配慮した。

### (4) 言語活動を充実させる工夫

- ① 学習問題、観察・実験、結論などは簡潔に表記することに努め、追究の過程やポイントが的確に把握でき、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりできるように配慮した。
- ② 結論は、口語敬体とした。学習問題、観察・実験などの表記は口語常体とし、文字の大きさや文字型も変え、児童が端的に読み取れ、活用しやすいように配慮した。
- ③ 学習の中で学んだ理科的な用語は、初出の時点でゴシック体で表記し、基礎的・基本的事項の理解・定着を図るようにした。

### (5) 学ぶ楽しさと学び方の豊かさを広げ、学習を深める工夫

- ① 「しらべてみよう」のページの設定  
単元の学習展開のところどころに、「しらべてみよう」のコーナーを設け、児童にとって身近で興味・関心のある事物・現象の中から、その単元で学習した事項を適用できるものを教材化し、日常生活への応用や科学的なものの見方・考え方がより高められるようにした。
- ② 「やってみよう」のページの設定  
単元の学習展開のところどころに、「やってみよう」コーナーを設け、学習の中での観察・実験とは別の方法などによって自然の事物・現象を調べたり考察を深めたりして、多様な追究の方法を体験したりすることができるようにした。
- ③ 自らの興味・関心を更に高める「発展的な学習」  
学習内容を理解できた児童が、更に興味・関心をもって自ら学習を進められるように、当該学年の学習指導要領に示されていない内容ではあるが、学習内容に関連があり、児童の発達段階に適合した教材を選んで「はってん」の学習として位置づけた。児童の実態や安全面には十分な配慮をした。

### (6) 科学的な資料性に富んだ写真、絵図などの工夫

多くの単元の最初には、見開きの写真や絵図などを配置し、児童の興味・関心や問題意識を高め、追究の意欲と見通しをもてるようにした。

特に、気象、人体、自然災害などのように直接観察が難しい学習では、写真や絵図を多用し、課題追究に生かせるようにした。

- ① 学習の内容に沿い、全国的・世界的な広い範囲から自然の事物・現象の写真等を用意し、学習に役立てられるよう配慮した。
- ② 目的を明確に伝えるために、自然の事物・現象のズームアップ、また観察・実験の装置や児童の手元のズームアップ写真などの充実を図った。

### (7) 「ものづくり」を大事にした展開の工夫

学習を展開するにあたり一人一人の児童が自作した教材を使って学習できるようにしたり、学習の成果を生かして応用する力を高めたり、より実感を伴った理解ができるように、児童の実態に即した「ものづくり」の場面の構成に努めた。児童同士の情報交換も大事にして、一人一人楽しみながらものづくりができるように、製作手順等のわかりやすい記述に配慮した。

### (8) 環境教育の視点を大切に理科指導

「自然の事物・現象は、孤立的ではなく周りとかかわりをもって存在している」「自然界は、微妙な均衡（つりあい）によって秩序が保たれている」「自然界には、地球上の水のように、循環しているものが多い。循環系の一部に汚染などが起こると、人や生物に影響が及ぶことになる」などの視点をもち、児童が自然の大切さに気づき、生命を尊ぶ心情や自然を愛する心情を育めるよう学習の展開を構成した。

### (9) 情報機器の効果的な活用

時代の趨勢、機器の進歩などを考慮し、多くの単元で情報機器を活用して学習を進めるよう単元の展開を構成した。特に、人体、気象、天体などの学習においては、必要な情報をコンピューターなどを有効に使う集め、学習に活用できるように配慮した。また、プログラミングを扱う単元を設定し、論理的な思考を身につけ、プログラミングの意義が理解できるように配慮した。

## 2. 対照表

(①, ②, …は、「内容の取扱い」を踏まえた事項を表す。)

| 図書の構成・内容  | 学習指導要領の内容   | 該当箇所   | 配当<br>時数 |
|---|---|--|----------|
| <b>1 「ものの燃え方と空気」</b><br>1 ものの燃え方とまわりの空気<br>2 ものを燃やすはたらきをする気体<br>3 ものが燃えた後の気体の性質<br>4 ものが燃えるときの、酸素と二酸化炭素の割合の変化 | A (1) 燃焼の仕組み<br>燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、物の燃え方を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。<br>ア(ア) イ<br>① 物が燃える現象を十分に観察できるような場の設定<br>② 物が燃える際に、酸素が使われ二酸化炭素ができることを気体検知管や石灰水などを用いて調べ、その結果を図や絵、文などを用いて表現する。<br>③ 燃焼実験の際には、加熱方法、気体検知管の扱い方などの安全に配慮する。 | 1 (P8～P10)<br>2 (P11～P14)<br>3 (P15～P16)<br>4 (P17～P19)<br>① (P8～P10)<br>② (P15～P16, P17～P19)<br>③ (P8, P11, P13, P15, P16, P17) | 8        |
| <b>2 「人や他の動物の体」</b><br>1 呼吸のはたらき<br>2 人や動物の食べた物のゆくえ<br>3 心臓と血液の流れ   | B (1) 人の体のつくりと働き<br>人や他の動物について、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。<br>ア(ア)(イ)(ウ)(エ) イ<br>① 人や他の動物の体のつくりや働きについての児童の理解の充実を図るために、映像や模型を活用する。  | 1 (P24～P27)<br>2 (P29～P32)<br>3 (P34～P37)<br>① (P26, P27) (P31～P32, P36～P37)   | 11       |



|   |   |   |           |
|---|---|---|-----------|
| <p><b>3 「植物のからだとはたらき」</b></p> <p>1 植物の養分<br/>2 植物と水</p>                         | <p>B (2) 植物の養分と水の通り道</p> <p>植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p style="text-align: right;">ア(ア)(イ) イ</p> <p>① 扱う対象として、身近で入手が比較的簡単で、葉ででんぷんがつくられる植物（シロツメクサ）を扱う。</p>                  | <p>1 (P42～P46)<br/>2 (P48～P54)</p> <p>① (P43～P46)</p>   | <p>9</p>  |
| <p><b>4 「生き物と自然」</b></p> <p>1 生き物と食べ物<br/>2 生き物と空気<br/>3 生き物と水</p>              | <p>B (3) 生物と環境</p> <p>生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境とのかかわりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p style="text-align: right;">ア(ア)(イ)(ウ) イ</p> <p>① 水の循環や酸素、二酸化炭素の出入りについて、図で表現することを通して、生物と環境とのかかわりを整理し理解できるようにする。</p> | <p>1 (P64～P69)<br/>2 (P70～P71)<br/>3 (P72～P73)</p> <p>① (P69, P71)<br/>(P74～P75)</p>  | <p>10</p> |
| <p><b>5 「月と太陽」</b></p> <p>1 月の表面<br/>2 月の形の見え方</p>                              | <p>B (5) 月と太陽</p> <p>月の形の見え方について、月と太陽の位置に着目して、それらの位置関係を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p style="text-align: right;">ア(ア) イ</p> <p>① 月の形や位置と太陽の位置の関係を推論し、モデルや図によって表現する活動を通して、天体における月と太陽の位置関係についてとらえることができるようにする。</p>                  | <p>1 (P78～P79)<br/>2 (P81～P85)</p> <p>① (P83～P84)</p>   | <p>6</p>  |
| <p><b>6 「大地のつくりと変化」</b></p> <p>1 しま模様に見える土地のつくり<br/>2 地層のでき方<br/>3 土地の変化と災害</p> | <p>B (4) 土地のつくりと変化</p> <p>土地のつくりと変化について、土地やその中に含まれる物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p style="text-align: right;">ア(ア)(イ)(ウ) イ</p> <p>① 児童が土地のつくりや変化について実際に地層を観察する機会をもつようにする。<br/>② 映像、模型、標本などの資料の活用</p>             | <p>1 (P91～P97)<br/>2 (P98～P106)<br/>3 (P107～P113)</p> <p>① (P90, P92～P93, P96～P97)<br/>② (P91, P94, P96～P97, P102, P104, P107～P113)</p> | <p>14</p> |

|  |  |   |    |
|--|--|---|----|
|  | ③ 博物館などの活用<br>④ 土地観察における安全や事故防止  | ③ (P102)<br>④ (P92～P93)   |    |
| <b>7 「てこのはたらき」</b><br>1 てこのしくみとはたらき<br>2 おもりの重さとてこのつり合い<br>3 てこのはたらきを利用した道具<br>4 ものの重さ | A (3) てこの規則性<br>てこの規則性について、力を加える位置や力の大きさに着目して、てこの働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。<br>ア (ア) (イ) イ<br>① てこ実験器を使って行った実験の結果について、支点からの距離とおもりの重さの関係を表に整理することを通して、てこの規則性をとらえさせる。  | 1 (P117～P119)<br>2 (P120～P127)<br>3 (P128～P129)<br>4 (P130～P131)<br>① (P121～P124)<br>(P126～P127)  | 10 |
| <b>8 「水よう液の性質」</b><br>1 水よう液にとけているもの<br>2 水よう液のなかま分け<br>3 水よう液と金属                      | A (2) 水溶液の性質<br>水溶液について、溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。<br>ア (ア) (イ) (ウ) イ<br>① 薄い塩酸、薄い水酸化ナトリウム水溶液などの扱い方の注意と、保護眼鏡の使用など安全への配慮<br>② 水溶液の性質や金属の質的变化について説明するために、推論したことを図や絵、文などを用いて表現する。 | 1 (P138～P141)<br>2 (P142～P143)<br>3 (P144～P147)<br>① (P137, P138, P139, P141, P142, P143, P144, P145, P146, P149)<br>② (P138, P143, P145, P147) | 10 |
| <b>9 「電気の利用」</b><br>1 電気をつくる<br>2 電気をためて使う<br>3 電気の利用のしかた<br>4 電気の有効利用                 | A (4) 電気の利用<br>発電や蓄電、電気の変換について、電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。<br>ア (ア) (イ) (ウ) イ<br>① 発熱の実験で使用する電熱線による火傷を防ぐなど、安全に配慮する。<br>② エネルギー資源の有効利用という観点から、目的に合わせてセンサーを使い、照明をつけたり消したりするプログラミングを体験的に学ぶ。      | 1 (P152～P156)<br>2 (P159～P161)<br>3 (P162～P163)<br>4 (P164～P169)<br>① (P163)<br>② (P166～P169)   | 15 |
| <b>10 「人と環境」</b>   | A (3) 生物と環境<br>ア (ウ) イ<br>① これまでの理科学習を踏まえて、自分が環境とよりよいかかわっていくにはどうしたらよいか、日常生活にあてはめて考える。  | (P172～P179)<br>① (P177)   | 3  |
|  |  | 計   | 96 |

# 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

|               |               |          |     |    |
|---------------|---------------|----------|-----|----|
| 受理番号          | 学校            | 教科       | 種 目 | 学年 |
| 30-117        | 小学校           | 理科       | 理科  | 6年 |
| 発行者の<br>番号・略称 | 教科書の<br>記号・番号 | 教 科 書 名  |     |    |
| 26 信教         | 理科 605        | 楽しい理科 6年 |     |    |

| ページ | 記述                             | 類型 | 関連する学習指導要領の内容や<br>内容の取扱いに示す事項  | ページ数 |
|-----|--------------------------------|----|--|------|
| 14  | ○ 鉄も燃える                        | 1  | A (1) 燃焼の仕組み<br>ア (ア) 植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。                                  | 0.25 |
| 26  | ○ 肺ほう                          | 1  | B(1) 人の体のつくりと働き<br>ア (ア) 体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること。                                 | 0.5  |
| 33  | ○ 小腸のはたらき                      | 1  | B(1) 人の体のつくりと働き<br>ア (エ) 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。                                      | 0.25 |
| 34  | ○ 大腸のはたらき(水分の吸収)<br>○ かん臓のはたらき | 1  | B(1) 人の体のつくりと働き<br>ア (エ) 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。                                      | 0.5  |
| 47  | ○ 葉にできたでんぷんのゆくえ                | 1  | B(2) 植物の養分と水の通り道<br>ア (ア) 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。  | 0.75 |
| 50  | ○ 根毛の観察                        | 1  | B(2) 植物の養分と水の通り道<br>ア (イ) 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。                 | 0.75 |
| 71  | ○ 光合成                          | 1  | B(2) 植物の養分と水の通り道<br>ア (ア) 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。  | 0.5  |
| 87  | ○ 月と太陽の比かく                     | 1  | B(5) 月と太陽<br>ア (ア) 月の輝いている側に太陽があること。また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わること。                       | 0.5  |
| 106 | ○ 穴の多く見られる石のでき方                | 1  | B(4) 土地のつくりと変化<br>ア (ア) 土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあること。また、層には化石が含まれているものがあること。 | 1    |
| 114 | ○ 地しんの多い国、日本<br>○ 震度           | 1  | B(4) 土地のつくりと変化<br>ア (ウ) 土地は、火山の噴火や地震によって変化すること。  | 1    |
|     |                                |    | 合計   | 6    |

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容